

所属	生涯福祉研究科 生涯福祉専攻 修士課程	修了年度	平成 24 年度
氏名	李 瀟瀟	指導教員	荒牧 美佐子

論文題目	早期教育に関する親の養育行動と幼児の発達 - 中日比較調査から -
------	--------------------------------------

本文概要

問題と目的

近年、中国では、幼児期から早期教育に熱心に取り組むことがすでに当たり前の現象になっており、幼稚園をはじめとした社会的な教育機関は、様々な習い事のクラスを開設している。親は子どもに将来成功してもらいたい、特技を身に付けさせたいなどの理由で、子どもの心身の発達よりも、知的な教育を優先させ、様々な習い事をさせている。また、ほとんどの子どもが一人っ子であるため、父母と双方の祖父母全員が一人の子どもを甘やかし、子どもの欲望を満足させるといった過保護なかかわりをしている家庭も少なくない。社会的に問題視されつつあるのは、中国の親が、子どもの知的な発達ばかりを重視し、他の面にはあまり関心を持っていない点である。

本研究では、中国と日本の幼児期の子どもを持つ親が自分の子どもに対して、どんなことを期待し、どういった子育てを行っているかについて比較し、子育て行動や意識の違いを明らかにすることを第一の目的とする。また、第二の目的として、それらの子育て意識や行動における違いが、早期教育および子ども発達、親の育児感情とどのように関連しているかについて明らかにする。

方法

本研究では日本と中国における3歳～5歳の幼児を持つ親を対象に質問紙調査を行った。中国調査は2012年6～7月に実施。中国浙江省K市の幼稚園3園に調査を依頼した。三つの幼稚園を通じて各100部を配布し、269部を回収した（回収率89.7%）。日本調査は2012年8～9月に実施した。東京都内の保育園3園、幼稚園2園の合わせて5園に350部を配布し、174部を回収した（回収率49.7%）。回収した結果は統計解析ソフトSPSS 11.5Jで行った。

結果と考察

全体的に、中国は日本より早期教育に熱心であることが確認された。そして、早期教育は子どもの発達、親の育児感情と関連していることが分かった。また、親の子育てタイプを分類するために、親の学歴や世帯収入、教育費、園への期待、子どもの将来への期待、子どもの発達状況などの変数を用いてクラスター分析を行った。中国と日本それぞれの子育てタイプを4つに分類し、その上で各グループにおける違いを検証した。中国では、4つのグループのうち、3つが早期教育に対して熱心である傾向が見られた。しかしながら、早期教育に熱心であっても、必ずしも子どもの社会性の発達や基本的な生活習慣の自立に対してネガティブな影響を与えているわけではないことが確認された。他群に比べて子どもの発達に関する得点、生活習慣の達成度が有意に低かったのは、園に対して情操教育よりも知的教育を強く期待し、子どもへの教育を外部に依存するタイプであった。

今後の課題

今後は、データ数を増やし、さらに分析の精度を高め、縦断的な調査を行う必要がある。また、本研究の調査地は中国の一部の地域であり、必ずしも中国を代表したサンプルではないため、他の地域の調査も必要である。